

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年8月）

目 次

内 政

- ◆ラディチヨヴァー前首相に対する政界復帰要請 2
- ◆「架け橋」による政党グループ結成の呼びかけ 2

外 政

- ◆中東欧におけるNATO基地設置を巡る動き 2
- ◆スロバキアの国連人権理事会への関心 2

社 会

- ◆難民及び亡命申請者の受け入れ状況 3
- ◆スロバキア・チェコ間の越境通勤 3
- ◆2機の小型飛行機の衝突事故 3

経 済

- ◆S & Pによるスロバキア格付けの引き上げ 4
- ◆ジャガー・ランドローバー自動車工場の誘致 4
- ◆スロバキア電力会社株式売却を巡る動き 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（8月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆ラディチョヴァー前首相に対する政界復帰要請（８月１０日付ＴＡＳＲ通信）

来年３月の国会総選挙に向けた野党「普通の人々・独立した人達（OLaNO）」と「新たな多数派（Nova）」の選挙連合は、ラディチョヴァー前首相に選挙リーダーへの就任を要請した。しかし、マトヴィチOLaNO党首によると、ラディチョヴァー氏は、今のところ要請を固辞している。マトヴィチ党首は、「ラディチョヴァー氏を支持する人々と同様に、数回に渡って説得を試みてきたが、残念ながら、メディアに対する回答と同じような反応に留まっている」と述べている。

◆「架け橋」による政党グループ結成の呼びかけ（８月１０日付SITA通信）

野党「架け橋（Most-Hid）」のブガル党首は「キリスト教民主運動（KDH）」及び「ネットワーク（Siet）」に政党グループの結成を呼びかけた。ブガル党首は、「自分は両党に呼びかけ、両党の党首と会談を行った。それ以降、少なくとも２党のうち１つは、この提案を検討することを待ち望んでいる。しかし、更なる忍耐が要求されるであろう。２人の党首が、選挙後の連立を準備し、現状を変革することを有権者に示さない限り、状況は悪化していく」と訴えた。また、ブガル党首は、３党が現政権に対抗するオルタナティブの結成の可能性を表明できるのは本年秋までと考えている。

外 政

◆中東欧におけるNATO基地設置を巡る動き（８月１９日付プラウダ紙）

中東欧のNATO加盟国はNATO常設基地の設置に関する協議を行う予定がある。特にバルト諸国やポーランドが基地の設置を要請している。１１月３～４日にブカレストにおいて、バルト３国、V4、ブルガリア及びルーマニアの首脳会合が開催される。スロバキアは異なる提案を携えていくことになる。スロバキア外務・欧州問題省は、スロバキアが小規模のリエゾン部隊の設置だけを念頭に置いていることを明らかにした。トマガ報道官は、「我々は加盟国の一部による常設基地設置要請を尊重する。スロバキアは基本的に常設基地を求めていない。国防計画をNATOの計画との調整を主な役割とするリエゾン部隊の設置に努めていく」と述べた。

◆スロバキアの国連人権理事会への関心（８月２６日付TASR通信）

スロバキアは、国連人権理事会理事国（任期２０１８－２０２０年）を選出する２０１７年の投票への立候補に関する加盟各国の支持を得るための集中的キャンペーンの機会として、本年９月１５日に始まる第７０回国連総会を活用

する見込みである。スロバキアは2008-2011年には同理事会の理事国を経験している。2007年の投票では135票を獲得した。人権理事会は47の理事国で構成され、地域の定数に基づいて総会において選出される。スロバキアは東欧グループに属する。総会では、ライチャーク外相が世界平和と安全保障の促進、人権保護、民主的原理、法の支配及び国連強化に関するスロバキアの立場を説明する。

社 会

◆難民及び亡命申請者の受け入れ状況（8月8日付プラウダ紙）

スロバキア内務省移民局は3つの難民施設を保有している。それらのキャパシティは804人であり、現在、37人が滞在している。各施設における受け入れ可能数は、ロハウツェ（スロバキア南東部コシツェ県所在）とオパトウスカー・ノヴァー・ヴェス（スロバキア中南部バンスカー・ビストリツァ県所在）でそれぞれ140人であり、現在、ロハウツェに19人、オパトウスカー・ノヴァー・ヴェスに3人の亡命申請者が滞在している。また、フメネー（スロバキア北東部プレショウ県所在）の受け入れ人数は524人であり、7人が亡命申請中で、8名は人道的移送のための滞在である。

◆スロバキア・チェコ間の越境通勤（8月10日付経済新聞）

かつて、スロバキア人がチェコに通勤する一方で、チェコ人がスロバキアに通勤することは非常に少なかった。しかし、現在は状況に変化が生じており、多くのチェコ人がスロバキアで仕事を求めるようになってきている。スロバキアの人材コンサルティング企業McRoy社のホリーク氏によると、主な理由は賃金である。スロバキアでは約900ユーロ、約2万5000チェココルナ相当の月給を得ることができる。チェコの南モラヴィア地方から5000人ほどが通勤していると見られる。ホリーク氏は、「多くの企業は国外からの応募に際し、文化的差異や言語障壁を不安視する。しかし、チェコ人に対しては、その不安はまったく当てはまらない」と説明している。

◆スロバキア北西部における2機の小型飛行機の衝突事故（8月20日）

スロバキア北西部イラヴァ郡チェルヴェニー・カメニユ村付近の上空において2機の小型飛行機が衝突して山中に墜落した。2機は共に22日にスロバキア北西部のスラヴニツァ空港において開催予定であった航空デーでのパラシュート降下に備えた訓練に向かう途中であった。2機にはそれぞれパラシュート・チーム17名と操縦士2名が乗っていた。1機は操縦士2名が死亡し、もう1機は操縦士2名その他、パラシュート・チームの3名が死亡した。航空海上

捜査局は、1機の高度が下がりすぎたことにより、もう1機に急接近し衝突に到ったと考えている。

経 済

◆S & Pによるスロバキア格付けの引き上げ（8月3日）

S & Pはスロバキアの格付けを「A」から「A+」に一段階引き上げた。財政健全化、公的債務の削減、そして、堅調な国内消費を基盤とする経済成長が、この前向きな動きに貢献した。カジミール財務相は、「格付けの引き上げは、持続可能な財政健全化等、国内課題遂行の歓迎すべき成果である」と述べた。経済危機以前の格付けへの回復は、スロバキア政府の経済及び財政政策の成果に対する明確な信用を示している。S & Pは2015年から2018年の経済成長を平均3%以上と予測すると共に、経済成長が公的債務の削減をもたらすと見ている。

◆ジャガー・ランドローバー自動車工場の誘致（8月12日付スメ紙）

Jaguar Land Rover社（JLR）工場のスロバキア進出が決まり、2018年にはスロバキア製Land Roverが生産される見込みとなった。JLRはスロバキアに進出する第4の自動車メーカーとなり、工場はスロバキア西部のニトラ地域に建設される。フィツォ首相は、双方が戦略文書に署名し、今後、補助金や生産開始に向けた援助について協議していくと述べた。JLRによる投資は約14億ユーロに上り、5000人の雇用創出も見込まれる。また、生産台数は年間30万台を計画している。過去数ヶ月、スロバキアはJLR工場の誘致をポーランドと競っていた。

◆スロバキア電力会社株式売却を巡る動き（8月25日付スメ紙）

チェコのエネルギー産業ホールディング（EPH）が、スロバキア電力会社（SE）の株式取得に近付いている。SEの66%の株式を保有するEnelはEPHとの交渉を開始した。EPHは同社の最高経営責任者のクシェティンスキー氏と投資家のトカーチ氏が3分の2の株式を保有し、残りはチェコ及びスロバキアを拠点とする金融グループJ & Tが保有している。Enelは、今後数週間のうちに、株式の売却契約に署名する見込みがあることを明らかにした。Enelは株式の過半数を維持するために、一部の株式のみを売却すると見られる。同社は保有株式を2回に分けて売却することを考えている。KPMGスロバキアのヴァンチョ氏は、EnelがEPHを選んだ理由として、スロバキアガス工業会社に関するスロバキア政府との調整の経験を挙げた。

◆スロバキア中央銀行月報（8月）

1. GDP

第2四半期の経済成長率は前期比で0.8%増、前年同期比では、第1四半期の3.1%から3.2%と若干加速した。6月の特定部門における売り上げは全体で前年同期比6.2%増となった。国内市場の売り上げの伸びは、外需の伸びを上回っており、スロバキア経済の成長を内需が支えたと考えられる。第2四半期の小売の売り上げ増加は、個人消費が加速し、経済危機以前の最大値を越えて拡大するという可能性をより高めることとなった。投資は、建設工事の増加と資本財輸入の加速によって大幅に拡大すると見られる。6月のスロバキアの鉱工業生産は成長を継続し、前年同期比6.4%増となった。

2. 雇用率及び賃金

第2四半期の雇用率の伸びは、前期比で0.65%に達し、約1万4700名の雇用増加となった。特にサービス部門が雇用を押し上げ、鉱工業及び商業部門もある程度の貢献を示したと考えられる。7月の登録ベースでの失業率は前月比で0.09%低下して11.46%となった。特定部門の6月の平均賃金は、前年同期比で3.5%上昇した。最大の賃金上昇が見られたのは建設部門であり、6.1%上昇した。6月の平均名目賃金は852ユーロであった。

3. 物価

7月の消費者物価指数の下落は、前年同期比0.2%減とわずかに加速し、前月比では0.3%下落した。予測を下回る食料品価格の動きが顕著な影響を及ぼした。短期的には現在の原油価格と比較的低い食料品価格がスロバキアにおける価格動向に最も大きな影響を及ぼす要因となっている。2015年のインフレ率は、第2四半期予測を若干下回る見込みであり、短期的には、8月の物価が前年同期比で-0.1%と若干下落すると予測される。2015年末には、消費者物価指数は前年同期比で若干のプラスに転じる見込みである。

4. 貿易

第2四半期の輸出は、予測通り前期比で減少したものの、それは第1四半期の増加を受けた調整であり、今のところ、スロバキアの鉱工業における輸出力の後退とまでは言えない。第2四半期の輸入も前期からの調整が見られ、輸出とは逆に若干増加した。輸入の動向は内需の成長を反映している可能性がある。6月の輸出は前年同期比10.9%増、輸入は13.5%増となった。6月の貿易黒字は3億5800万ユーロであった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

